

京都府スポーツ観光振興構想(仮称) 中間素案(骨子)

■趣 旨

- 2020年の東京オリンピックなどスポーツへの関心は年々高まりつつあり、国は、「スポーツ」と「ツーリズム」とを融合させた「スポーツ観光」を成長戦略の大きな柱としている。こうした中、京都府では平成25年度スポーツ観光に関する調査を行い、本年度「スポーツ観光聖地化事業」を予算化したところである。
- 今後、「スポーツ観光振興構想(仮称)」を策定し、多くの方々がスポーツを楽しむために京都を訪れ、スポーツ大会等の参加者等が京都観光を楽しみ、交流人口の拡大、地域の活性化を目指しオール京都でスポーツ観光を進める。

■めざす姿

- 継続的・日常的に、「する」スポーツを楽しむため多くの人々が京都を訪れ、交流人口の拡大、定住の促進につなげるとともに、地域経済への波及効果を生み出す仕組み(産業化、雇用の創出)が、地域住民自身により持続可能なものとして構築されていること。
- 観光客(外国人を含む)やスポーツ大会等の参加者に質の高い情報や旅行商品を提供するとともに、スポーツ大会等が府内各地で開催され、他の地域や住民との交流が活発となること。
- 観光関連団体とスポーツ関係団体との協力体制が構築されるとともに、府内の各地域においてスポーツを支える環境が整備されていること。

■施策展開方向

1 「する」スポーツの推進

- スポーツ施設の整備を引き続き進めるとともに、スポーツ施設の活用を図る。
- 「スポーツ観光聖地づくり事業」によりスポーツ観光をテーマに地域振興等に取り組む市町村等に支援するとともに、地域経済への波及効果を生み出すためのスポーツ観光関連の産業化等を支援する。

2 「観る」スポーツの推進

- オール京都でスポーツ大会や合宿等を戦略的に誘致するとともに、大会等の参加者等を滞在型旅行に誘客する仕組みづくりを構築する。

3 「支える」スポーツの推進

- トッププレイヤー等が引退後インストラクター等として活躍できるよう支援するとともに、スポーツ団体と観光関連団体の連携による協力体制を構築する。

4 情報収集・共有・発信とそのための枠組みの整備・構築

- スポーツ観光に関する情報収集・発信の整理・一元化を図るとともに、HP等の多言語対応を進める。

5 オール京都の組織体制の整備

- オール京都で戦略的にスポーツ観光を推進するため、当面、「プラットフォーム組織」を設置し、将来的にはコミッション的組織の設置を目指す。